

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年3月1日

事業所名 きらり中庄

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・人数の調整をその都度行っている。 ・活動ごとに場所やスペースを設け、集中できる環境を設けている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		・職員同士の休みの日も調整している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・マットや棚を活用して構造化している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・毎日、玩具消毒をしている。 ・清掃、片づけ以外にも室内の空気の入替え温度や湿度に配慮している。 ・子どもたちが片づけられるように配慮している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・常勤職員は「業務目標評価制度」に基づき業務に取り組んでいる。定期的な面談を実施し、業務についての気付きなどを聞き取っている。	・各自、業務目標管理活動において改善課題を明確にしている。面談などを行い、話し合っている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・年に1度の評価だけではなく、普段からご意見や気付き、改善案を通信に掲載して、利用者(家族)職員と共有している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・事業計画に載せ、保護者にも配布、説明している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		・定期的に評価している。保護者を招いた公表の場も設けている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・内部(法人内月1回程度)だけではなく、外部の研修に参加する機会を設けている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・子どもの様子を保護者のニーズを踏まえ、原案を作成し職員と話し合い立案している。 ・計画を立案する前に面談を行い、保護者のニーズをより取り入れることができるようにしている。(ひかり)	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・事業所内で共通のアセスメント項目に沿って把握している。 ・重症児のお子さんは、項目を別に設け把握している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・計画立案前の原案において3つの支援項目に分け具体的に考えている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・毎回、計画を確認し支援に反映している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・担当が立案して内容を相互共有している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・季節ごとの行事を取り入れている。同じ行事でも、年度が変わると見直している。担当を変え、内容も変化させている。 ・週ごとに担当を交替して実施している。 ・前回の取り組みのコピーを個別のファイルに保管して、次の立案の際に参考にしていく。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		・原案の段階で、個別と集団活動を適宜組み合わせ目標と手立てを考えている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・役割分担、運営をボードに書いて確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・当日、もしくは翌日に気付きを共有し、書面に残し不在職員とも共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・気になることはその都度メモを残し、支援終了時か会議の場で検証している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・振り返りを記録に残し、お子さんの成長や変化とともに支援計画を見直している。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・児発管もしくは担当が、必ず参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・地域の保健師と情報共有している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		・保健師、計画相談の職員、障害福祉課、早島支援学校と情報共有できるように連絡している。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		・指示書にて医ケアの内容と連絡先を把握している。 ・主治医訪問を行って児の様子を共有している。	・主治医訪問は継続する。新規利用のお子さんの主治医訪問を行う。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・保護者経由で、日々の連絡帳にて支援内容を伝えていく。訪問や電話対応などで、情報共有している。 ・新規利用児は、必ず園訪問を行い、書面で支援方針を伝えている。	・園側の意見を聞き取りながら、園の都合に合わせ情報共有や相互理解を図る。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・移行の際は、状況表として現状と支援内容を書面にして小学校や持参し説明している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者との連携	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・児童発達支援センター倉敷学園とは、連携して研修を開催している。 ・ST,OT,管理栄養士から助言を受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・敷地内の保育園とは、合同の行事(七五三、クリスマス会)を行っている。	・機会がないお子さんを中心に考えて、機会を提供する。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○	・部会が実施している研修には、参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・活動の様子は、引継ぎの際に伝達している。欠席の場合も、電話で様子を聞き取っている。連絡帳や口頭で現状を聞いている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		前期、後期 6回クールで実施している。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・原案とともに説明して、保護者から承認を得ている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・悩みの内容、状況によって対応できる職員で相談を受けている。 ・必要があれば専門職へ助言を求め、保護者へ返答している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・保護者同士が集まり、情報収集や悩みを語り合う場（茶話会、おやじの会、懇親会など）を企画している。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・保護者から発信できる機会を設け（口頭や書面）ている。その場で返答できない場合は、上司や専門職から助言をもらい返答している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・毎月の通信で情報を伝え、活動の様子も写真とともに報告している。HPのブログでも活動状況をアップしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・写真は、同意書で確認し、行事ごとに使用の許可を確認し、了承を得て掲載している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・話す場所、時間帯テンポ、情報量など調整している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・敷地内の建物で、健康体操や話し合いの場を設けている。 ・年に2回、地域を招いた行事を開催している。	
41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○	・感染症マニュアルは改正中。 ・クラスに掲示している。	・BCP,BCMを作成し、マニュアルなども保護者や職員へ配布して伝える。 ・定期的に確認する機会を設ける。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・毎月、避難訓練を実施し結果を掲示している。 ・配慮食も含め備蓄している。 ・セルフプラン作成も提案している。 ・倉敷防災推進課の出前講座を招いた。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・利用する前の契約時に確認している。 ・書面をケースファイルに保管し、利用日ごとに確認し、緊急時は持ち出せるようにしている(71かり)	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・アレルギーがある場合は、書面で指示を確認し、管理栄養士のもとで対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・通信に載せ、保護者、職員と対策を共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・研修を実施。配慮すべき心得を掲げている。	・毎月、虐待につながる恐れのある事柄、不適切な関わりなどを話し合う機会を設ける。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・実施内容は毎回連絡帳に記入して保護者に伝えている。必要性は定期的に話し合っている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。